

## 1. 令和元年度稲毛区利用状況報告

<p>1) 開館日数については、新型コロナウイルス感染防止に鑑み3月3日より20日休館で昨年度より16日減の343日。なお小中台公民館は9月中の工事による閉館のため313日である。</p> <p>2) 利用人数の内訳については、新型コロナウイルスの影響により休館や利用団体制限等により利用者は減少している。しかし、主催事業は2月末から3月末までの中止にも関わらず、隔年の文化祭開催館や新規事業に取り組んだ館により利用者は増加した。</p> <p>3) 図書室の利用状況については、蔵書数は各館ともに廃棄を進め減少しているが、一方に新規購入図書は増加している。登録者数は、ほぼ前年度並みとなっているが貸出者数、貸出冊数は休館にも関わらず増加している。</p>
--

## 2. 令和元年度事業成果と令和2年度事業計画について

	公民館名	令和元年度事業成果	令和2年度運営方針	令和2年度事業計画 重点項目・特色	前年度からの改善点
1	小中台公民館	文化祭は元年度開催年ではなかったが、クラブ連絡協議会の協力を得て公民館主催の「小中台公民館秋祭り」を初めて開催し、約800名の市民の方が訪れ大盛況であった。	第5次生涯学習推進計画に基づき、学習活動のきっかけの提供、多様な学習機会の確保を通じ、学びを生かしたコミュニティづくりを目指す。	子育て世代を支援するため、「パパ・ママの救急法講座」を実施する。歴史講座及び文学講座を新たに開設し、多様なニーズに応える。	元年度のデコレーション寿司の応募が思わしくなかったため、クリスマスケーキ作りに変更する。
2	黒砂公民館	地域施設への理解を深める目的で開催した「放射線医学総合研究所見学会」、子育て世代への学習支援を目的に開催した「パパ・ママ救命教室」、公民館定期団体が講師となり実施した「こども書き初め教室」、「新そばを打とう【そば打ち体験講座】」など、新規事業を多数展開し、総じて好評であった。	社会教育施設として、多彩かつ一層充実した内容の主催事業を実施し、地域住民に様々な学びの機会を提供する。また高齢者や子育て世代の方々集いの場や子ども達の居場所とする等、公民館を更に広い世代の方々に利用して貰えるように努める。	主催事業「夢の箱」を充実させ、より多くの地域の小学生の参加を図るほか、予約が入っていない時間帯の部屋を中3以上の生徒・学生に開放し、受験勉強等の自習室として利用させる。また、買い物難民解消の為、駐車場の使用が許可されている移動販売車来館時に合わせ高齢者を対象とした地域住民交流事業を実施する。	常に受講者の評価が高い「歴史講座」に関し、地域の方々に身近な郷土史講座を設定し更に充実させるほか、「おやこ防災教室」などの新たな子育て関連講座を創設する等、子育て世代の公民館事業への参加を促進する。
3	轟公民館	日本酒入門講座や太宰治文学講座など、個人講師による講座が好評であった。また、隔年で行われる文化祭も盛況であった。	誰もが楽しみながら学ぶことのできる、様々な学習機会の提供及び地域住民の自発的な学習活動を支援し、連帯意識等住みよい地域づくりを目指す。	親子の絆を深めることを目指し、親子で参加できる講座を2講座増やし、参加がみられない中学生講座を4講座企画した。また、地域に定着した事業を継続する。	アンケート結果を基に、参加者ニーズを把握し新しく12講座計画し、文化祭の無い年にあたり、クラブの発表できる事業を展開する。
4	稲毛公民館	情報機器の操作を扱う講座の他、市民ギャラリーいながとの共催である水彩画教室、そして郷土に伝わる料理講座（浅間まんじゅう・房総太巻きずし）等も、たいへん好評であった。第43回文化祭も大盛況のうちに終えることができた。主催者側、来館者共に充実したひと時を過ごされていた。	地域の皆さんの社会教育の場、学びの場として、各種事業に進んでご参加いただけるよう、事業内容のより一層の充実を図る。	郷土の歴史や伝統・文化について学ぶ事業、現代的な諸課題に対処するための事業、一般教養を高めるための事業等、計28事業を計画している。子供たちを対象にした防災教育も新たに1事業増やした。	事業実施後のアンケート結果や応募率を事業立案の際、参考にした。応募率の高かった情報機器の操作を学ぶ事業を、2事業プラスの4事業とした。
5	千草台公民館	もう一度小中学生になろう講座の一環として、国語、算数、理科、社会、体育、美術、道徳、部活動を行った。それぞれの講座に多数の参加があったが、興味関心を惹きづらぬ講座もあった。	わくわく楽学公民館をキャッチフレーズに、小学生から高齢者までともに楽しく学べる場所を目指す。これをもとに、①2%のイノベーション、②ニーズへの対応、③他機関との連携、を図る。	わくわく楽学講座の実施。義務教育の教科学習を通して、各世代を融合した学びの場を設定した。地域とのつながりを重視、中学生対象の寺子屋や地域住民がくつろげるカフェを実施する。	地区文化祭を補充するために、ミニ文化祭を実施する。アンケートに応え、ロシアの食文化、スマホの安全教室等実施すると共に、人気のあった勾玉作りの復活や新規にはた織り教室を行う。
6	草野公民館	新規に企画・実践した体験講座には大変人気があった。土曜学校と共催で行ったことも子供たちのにとって有意義な時間となった。	たくさんの方が集える公民館活動になるよう、地域住民を対象とした講座の拡充を図る。	幅広い年齢層に対応するため、家庭教育の講座を1事業増やし、たくさんの方が集える演奏会を新たに企画した。一般のニーズに応えた講座も4事業増やした。	アンケート結果を基に、希望の多かった教養を深める講座を企画したことと、関心の高い防災講座を企画した。土曜日学校との連携を継続する。
7	山王公民館	第31回山王公民館文化祭は、1,035人の来場者があり、盛況であった。地域を知るための「郷土史講座」、パラリンピックの機運を高める「ポッチャ体験教室」や高齢者向けの講座が好評であった。 図書室は、使いやすい図書室を目指し、新規購入図書を充実させたことにより、来室者も増加した。	社会教育の場・学びの場・集いの場として、図書室も含め地域の方が利用しやすい公民館を目指す。また利用団体連絡会と連携しながら、サークル活動や文化祭の充実を目指す。	現代的課題（オリンピック・国際理解に関する講座）、子供の居場所づくり（長期休業中の講座）、地域のニーズ（高齢化に対応した講座）を柱に計画。また市内では比較的新しい地域なので、「地域を知る」ための講座を計画した。	事業後のアンケートや運営懇談会での意見を参考に、事業内容の改善や施設の整備を行う。また公民館ニュースなど広報活動を充実させ、地域に開かれた公民館を目指す。
8	都賀公民館	利用者の拡大と促進のために、新規事業を企画した。児童向けの講座の参加者は少数であったが、内容は充実していた。大人向けの講座は大好評を博した。図書室は新規購入図書を充実させた。	社会教育施設としての公民館の役割を「生涯学習の場」・「心豊かな人間関係づくりの場」・「住み良い地域環境づくりに役立つ場」としてとらえ、一層の内容の充実を図る。	利用者の拡大と促進を図るため、少年教育で3つ、高齢者教育で1つの新規事業を計画した。また「都賀公民館の図書室に行きたい」と言ってもらえる地域に密着した図書室経営を目指す。	利用者のアンケート結果に加えて、「不易と流行」を吟味しながら主催事業を計画する。図書室経営については、利用者の使いやすい環境づくりを心がける。
9	緑が丘公民館	年々利用者数が減少傾向にある中、主催事業を増やし内容を充実させることに努めてきたことは、利用者数の増加に効果があったと考える。特に将来を見据え、子供向けの講座を充実させてきたは地域に評価された。	館内外の環境整備を継続しつつ、ニーズや社会の動向等を見据え、多様な年代に向け、多様な事業を展開することにより、利用者減少に歯止めをかける。また、図書室運営の一層の充実を図る。	これまで好評を得ている事業を継続実施するとともに、各年代に対応するバランスのよい事業展開、さらに、将来の利用者となる子供向け事業の充実を念頭に運営をしていく予定。実施予定事業は昨年と同数。	各種事業展開及び図書室運営、そして、「公民館」を知っていただくためにも、広報活動を一層充実させるとともに、事業開催時期の適切化を図る。